

1 学年だより

vol.8 県立柏崎常盤高等学校R2/7/8

1年家庭学習:平日2h以上74%

家庭学習時間確保の必要性:学力は(基本的に)学習時間に比例する

6/8~28の3週間の家庭学習状況をまとめた。毎朝、前日の学習状況を記録してもらったわけだが、平日平均1.8h、休日2.8hとなり、学年の目標である最低平日2時間(目標3時間)、休日4時間にはわずかに届かなかった。度数分布で見ると、89人が平日2h以上クリアしているので、高校スタートの今としてはますますといったところか。3週間のデータだから、継続して安定的に取り組まないとなかなか出ない数字だ。だから、これはすでに「習慣」といっていい。習慣は第二の天性となりうる。そして、習慣は第一の天性(生まれつきの能力)を超える。良き習慣が人間をつくる。

平日最大	平日最小
3.8	0.4
休日最大	休日最小
5.4	0.8

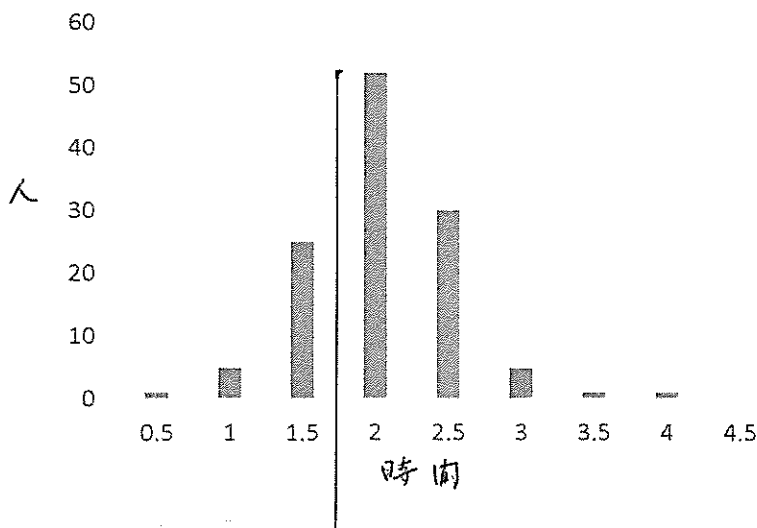
平日平均
1.84
休日平均
2.76

合計最大	合計最小
89	16.5
合計平均	
44.3	

平日平均

時間	度数(人)
0.5	1
1	5
1.5	25
2	52
2.5	30
3	5
3.5	1
4	1
4.5	0
	0
	120

平日平均

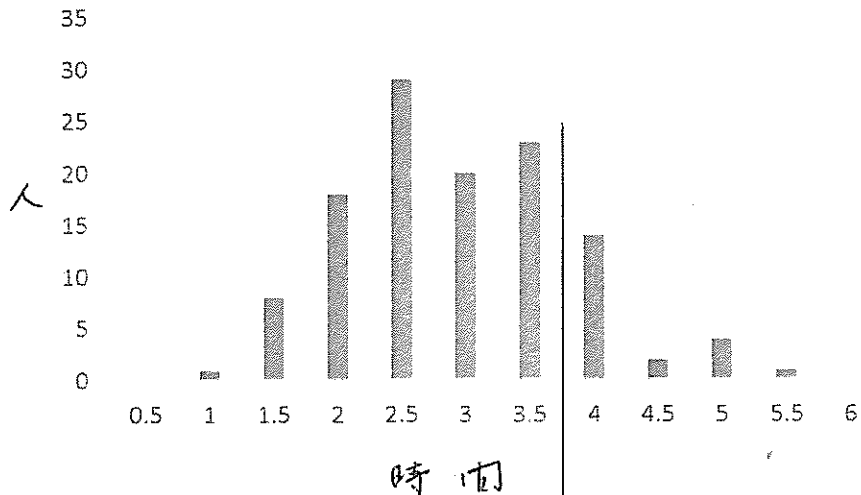


このわずか3週間で、最大と平均で45h、最大と最小で72hの開きがすでに生まれている。この時間を取り戻すには2h平均で約1ヶ月かかる。時間ほど万人に平等なものはない。ある人には1年が13ヶ月あるわけではない。しかし、しっかり勉強できた人は、1年を13ヶ月に増やしたと同じことになる。

休日平均

時間	度数(人)
0.5	0
1	1
1.5	8
2	18
2.5	29
3	20
3.5	23
4	14
4.5	2
5	4
5.5	1
6	0
	120

休日平均



担任の先生方は、毎日みんなの学習状況をPCに打ち込みながら、クラス平均平日2h、休日3hの壁を感じた。なかなか越えられない。翌日の英語の授業に備えての予習(単語の意味調べや訳文づくり)だけで一時間はかかるだろうから、毎日1hの学習は翌日の授業にできる参加資格(=作業)にすぎない。2hできたとき、はじめて1h分が勉強=学力養成となる。(3hできたとき、2hが勉強となる。ベネッセ中尾さんの進路講演にもあったとおり、「勉強と作業はちがう」のだ。)

英語、数学などの「理解型」(理解に時間がかかり、学習しただけ伸びる。試行錯誤と応用が大切)の勉強では、高1の今の1時間は高2の2時間、高3の3時間分の価値をもつ。

キミが社会人であるとして、仕事ができる人間になるためにはどうしたらよいか。答えは簡単で、早く大量の仕事を経験をすることで、力量をつけていくしかない。仕事をまえに尻込みしている人はいつまでも仕事ができる人間にはなれない。勉強も同じで、勉強時間(=量)の確保ができたとき、「質」の転換がおこる。まず勉強量を増やして「勉強力」をつけなくてはならない。(だから、自分は集中するから短時間でいいということにはならないのだ)

読書も同様で、読書家といわれる人は大量の本を読むことで、「読書力」をつけた人だ。はじめから読書好きだったわけではなく、読書をすることで読書の面白さを知って、読書好きな自分をつくったのだ。生まれつき勉強好きな人はいない。だから、たくさん勉強して勉強の面白さ(と大変さ)を知って、勉強好きな自分をつくって欲しい。

年をとって定年退職したら読書でもしようか、そのとき好きな勉強でも始めようかという人を信ずることはできない。多分たいした読書も勉強もできないだろう。青春時代の若き日の「訓練」が絶対に必要だ。テストや受験のために勉強するのではない。

勉強(や仕事)の面白さだけを語って、その大変さを語らない人も信用できない。たくさん勉強(や仕事)をした人はその大変さ・困難さが分かるので、他人の仕事の価値が分かるようになる。それが手抜きをやっつけ仕事か時間を掛けた立派な仕事かが見分けられるようになる。その人は自然と他人の立派な仕事を、大切に扱い尊重し尊敬の気持ちを抱くようになるのだ。

高1は「基礎固め」「勉強力をつける」時期、勉強グセをつけよ。

「机に向かわないと気持ち悪い」ようになれば、しめたものだ。